

栃木県の幼児教育と小学校教育をつなぐジョイントカリキュラム

つなげよう！ とちぎのこどもの まなび

「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へ



平成28年度幼小連携推進者養成研修成果物

この資料は

- ✧ 入学を境にした時期に、子どもの学びや育ちがどのようにつながっていくのかを、多様な側面(テーマ)から捉え、まとめたものです。
- ✧ テーマ毎に、幼児期後期から小学校入学当初にかけて大切にしたいことを、「子どもの姿」「保育者や教師が大切にすること」「大切な経験や活動」の3つの視点で示しました。
- ✧ 各園・各校でアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを作成する際の参考にしてください。



平成28年度 受講者及びジョイントカリキュラムテーマ

	所属・氏名		テーマ		所属・氏名		テーマ
1	宇都宮市立錦小学校	谷 中 花 衣	気持ちのよい生活 (整理整頓・片づけ)	11	小山市立大谷東小学校	河 又 希 望	コミュニケーション力の育成 (集団遊びを通して)
	ひのおか保育園	内 田 明 希			やはた保育所	福 田 純 子	
2	宇都宮市立緑が丘小学校	橋 本 彩	あいさつを通して 人と人とのつながり	12	栃木市静和小学校	大 橋 敏 子	あいさつの習慣
	すみれ保育園	金 子 沙 由 梨			都賀よっぱ保育園	見 目 道 子	
3	宇都宮市立宝木小学校	服 部 志 乃	正しい食事の仕方	13	下野市立石橋小学校	角 張 今 寿 美	話す・聞く力
	認定こども園駒生幼稚園	高 橋 亜 衣			グ リ ム 保 育 園	柏 崎 裕 子	
4	上三川町立明治南小学校	櫻 井 佐 和 子	読書への意欲	14	さくら市立氏家小学校	河 村 幸 江	自己肯定感を育てる
	やしお幼稚園	上 野 律 子			わくわく保育園	稲 澤 典 子	
5	鹿沼市立北小学校	横 尾 祐 子	創造力	15	高根沢町立西小学校	荒 井 美 貴 子	自己肯定感（安心感 ・達成感）を高める
	西 保 育 園	高 木 愛			陽 だ ま り 保 育 園	横 澤 佐 和 子	
6	鹿沼市立津田小学校	田 中 京 子	人間関係の構築	16	大田原市立奥沢小学校	佐 久 間 恵 子	コミュニケーション力の 育成
	認定こども園仁神堂幼稚園	守 屋 和 美			野 崎 幼 稚 園	中 里 智 子	
7	日光市立清滝小学校	我 妻 里 恵	自己表現力を高める	17	那須町立高久小学校	小 須 賀 沙 耶 花	表現力
	清 滝 保 育 園	赤 池 美 幸			高 久 保 育 園	新 井 貴 子	
8	市貝町立市貝小学校	永 山 幸 子	決まりを守って、 楽しく活動する子の育成	18	那須塩原市立大原間小学校	小 室 亜 希 子	数の意味を理解し、 数を用いる力の習得
	市 塙 保 育 所	桧 山 裕 子			永 田 保 育 園	磯 智 子	
9	芳賀町立芳賀南小学校	町 井 瑞 枝	体力づくり	19	佐野市立犬伏小学校	石 川 佳 子	思考力
	みずはし保育園	七 井 恭 子			吞 竜 幼 稚 園	小 沼 洋 子	
10	壬生町立壬生小学校	野 口 綾 子	協同性の育ち	20	足利市立御厨小学校	松 崎 令 子	話す・聞く力
	おもちゃのまち幼稚園	田 沼 菜 奈			足利市立羽刈保育所	田 中 し の ぶ	

①テーマ：気もちのよい生活（整理整頓・片づけ）

幼児期・年長後半

入学

一年生・入学当初

（学びの芽生え）

（自覚的な学び）

子どもの姿

片付けて
こんなふうに
やるんだ

片付けの
時間だから
片付けるよ

自分のもの
は自分で
片付けるよ

片付けする
のは気持ち
がよいな

みんなで使う
教室をきれ
いにしたいな

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

- ・満足するまで活動や遊びができるようにする。
- ・遊びや活動の前に片付けの時間を伝えたり、種類別に玩具の収納箱を用意したり、片付けのしやすい環境を作る。
- ・片付けの仕方について、子ども自身に考えさせ、工夫できるような言葉掛けをする。
- ・相手のことを考えて行動し、片付けるということはみんなが気持ちよく過ごせるということに気が付き、責任をもって片付けができるようにする。
- ・自分の持ち物・ロッカーの片付けを通して、自分の物を大切に、管理することができるようにする。



- ・ランドセルなどのロッカーへのしまい方や、お道具箱の中身の置き方など、片付けの仕方が分かりやすいように掲示物を作り、児童が進んで片付けに取り組むことができるようにする。
- ・クラス全員で校庭の石拾いや近くの公園の落ち葉拾いなどをし、学校・地域の一員だと実感し努力できるようにする。
- ・縦割り班清掃に参加し、学校の一員として校内がきれいになる喜びを感じられるようにする。
- ・道徳で「よいことはすすんで」「ものは大切に」などの資料を使って公共物の正しい使い方について考える場面を作る。
- ・進んで片付けや掃除をしたときには児童の頑張りを認め、褒める。



- ・自由遊び
（ブロック遊び・ごっこ遊び・砂遊びなど）
- ・絵本・紙しばい
- ・片付け競争
- ・着替え（制服・体操）
- ・給食の準備・片づけ
- ・制作活動での片付け
- ・子どものアイディアによる保育環境
- ・ぞうきん・ほうき・ちりとり
の使い方を知る
- ・本棚やボールなど、学級の物の管理
- ・授業の用意・準備
- ・校庭掃除
- ・給食の配膳・片付け
- ・体育での服の取り扱い方（体操着・洋服）
- ・縦割り班での清掃

目指す姿：学校をぴかぴかにしたいな！

②テーマ：あいさつを通して人と人とのつながり

幼児期・年長後半
入学
一年生・入学当初

(学びの芽生え)

(自覚的な学び)

子どもの姿

声を出す

周りの子の
見まねをする

伝える喜び

相手に伝わる
大きな声で

目と目を
合わせる

心をこめて

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

- ・恥ずかしがり屋など子どもたちは様々なので、根気よく「おはようございます」「さようなら」等と伝え、自ら自然と言葉で言える環境づくりをする。
- ・「ありがとう」等感謝やお礼の気持ちを伝え合い、ありがとうと言われると嬉しいという体験をし、相手への思いやりを口にし優しい心が芽生えるよう感じられるよう日々の生活の中でのコミュニケーションを育み心を豊かにする時間を大切にする。
- ・行事を通して地域の人たちとの交流をし、人と人とのつながりを感じる。



- ・挨拶をすることを通して、友達や先生、異なる学年の児童、地域の人等と積極的に関わろうとする態度を育てる。
- ・より相手に伝わるようにするために、「相手を見る」「お辞儀をする」ことについてもできるよう、意識をもたせる。
- ・相手意識をもって挨拶ができるよう、大きな声で丁寧に挨拶ができるよう声掛けをする。
- ・より気持ちの良い挨拶をするために、笑顔で挨拶ができるよう、教師が笑顔で挨拶をしたり言葉がけをしたりする。



- ・読み聞かせ
- ・かるた遊び
- ・掲示物
- ・畑の収穫・近所におすそわけ
- ・老人ホーム訪問等の交流
- ・園外散歩

- ・登校
- ・下校
- ・対面式
- ・授業開始終了
- ・休み時間
- ・健康診断
- ・名刺交換
- ・学校探検
- ・縦割り掃除
- ・縦割り班活動

目指す姿：大きな挨拶 仲間づくり

③テーマ：正しい食事の仕方

【保育者・教師が大切にすること】 【大切な経験や活動】

幼児期・年長後半
入学
一年生・入学当初

(学びの芽生え)

(自覚的な学び)

子どもの姿

食べる
喜び・楽しさ

食べ物への
興味

色々な味に
ふれたい

給食の献立や当
番活動への興味

マナーを守って
楽しく食べたい

苦手なものでも
チャレンジ

- ・体を動かして空腹を感じる環境をつくる。
- ・和やかな雰囲気の中で保護者や他の園児と食べる喜びや楽しさを味わえるようにする。
- ・給食や月刊誌、図鑑を通して様々な食べ物を知り興味、関心を持つことが出来るようにする。
- ・食べ物の特徴や効果をクイズなどの方法で親子で楽しく知る、気づく。実際に栽培を行うことで、より食に興味を持ち、食べ物のありがたみや味や匂い、見た目などを身をもって感じる。
- ・苦手なものにも1口食べるなど声をかけ、挑戦する気持ちや「どんな味なんだろう？食べてみたい」と自ら食べようとする気持ちが育つようにする。



- ・給食の献立を通して抱いた食べ物への興味を大切にし、正しい食べ方への興味関心につなぐ。
- ・児童が行う配膳は、簡単なものから始め、ステップをふんで指導をしていく。
- ・こぼさずにきれいに食べたいという気持ちから、箸の持ち方や食器の置き方などの指導へつなげていく。
- ・偏食や小食傾向の児童には、少なめの配膳を行い、自分で食べられる量を把握させることで、給食への抵抗を減らす。
- ・道徳指導や日常生活の中で、作った人への感謝の心、当番への協力等の態度を育てるようにする。
- ・苦手な食材や初めての食材に、少しでも触れさせ、食べることができた時の頑張りを認めることで、自信や次も食べようという意欲につなげる。

- ・紙芝居
- ・食育クイズ
- ・表
- ・月刊誌
- ・栽培活動
- ・制作活動
- ・サンドウィッチ作り
- ・はしの持ち方指導
- ・配膳の仕方
片づけ方
- ・食育週間
クイズ・放送
- ・お弁当の日
- ・親子給食
- ・産地紹介
- ・栄養素に関わる
メニュー紹介
- ・ランチルーム使用

目指す姿：きれいに食べたよ。ピカピカだよ。

④テーマ：読書への意欲

【保育者・教師が大切にすること】 【大切な経験や活動】

子どもの姿

読んでもらって
楽しいな

先生読んでね

みんなで
読もう

この本
知ってるよ

この本
楽しそう

知りたいな

- ・親子一緒に本を読むことを通して、読書習慣の基礎を培い、本の楽しさに気づくきっかけとなるよう家庭への啓発を行う。
- ・帰りの会などで、読み聞かせを行い、物語を聞いて楽しみ、そこで想像上の世界や未知の世界に出会う喜びを感じられるようにする。
- ・生活する中で、子供たちの興味・関心から選書し、みんなで一緒に本を楽しむ。その思いなどを教師や友達と共有できるようにする。



- ・今までに体験した遊びや具体的な活動から、知っているお話に興味をもつことができるように環境を整える。
- ・たくさん並んだ本の中から、自分で読みたい本を選ぶ喜びを味わえるようにする。
- ・文字だけでなく、絵や写真からも想像を膨らませ、楽しめるようにする。
- ・目的に合わせて選んだ本を自分で読み通す経験をすることで、読書の楽しさをより深く味わえるようにする。



- ・読み聞かせ
- ・紙芝居
- ・観劇会
- ・発表会
- ・ごっこ遊び
- ・劇遊び
- ・家読
- ・担任による読み聞かせ
- ・図書ボランティアの読み聞かせ
- ・朝の読書
- ・上級生によるおすすめ本紹介
- ・学校探検
- ・図書室利用指導
- ・文字の習得
- ・必読図書
- ・栽培活動
- ・飼育活動等

目指す姿：じぶんで えらび たのしんで よむ

幼児期・年長後半
入学
（学びの芽生え）
↓
（自覚的な学び）
一年生・入学当初

⑤テーマ：創造力

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

子どもの姿

どうしよう

やってみたい

おもしろい

試したい

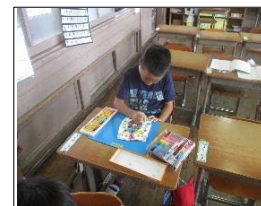
もっと作りたい

伝えたい

- ・遊びの中でやってみたい、表現してみたいという気持ちをうけとめ、やりとりの中で楽しさを見つけられるように様々なあそびを設定する。
- ・うまく描けない、創造することが難しい子どももいる。到達目標を明確に決めることなく、自由におこなえる機会をつくる
- ・遊びの中で持続性のある創造したものを残したり、写真として残すことで子どもがより遊びを展開していけるようにする。
- ・生活の中で保育者がこどもたちの創造したものについて話をしたり受容する。その中で自分の創造を理解してもらい、伝わる楽しさを味わえるようにする。



- ・遊びをしながら、いろいろなことを試したり、工夫したり、新しいことを生み出したりすることができるよう支援する。
- ・図画工作では、好きな絵を描いたり、粘土で自由に作ったりして、やりたいことを自由に楽しく取り組めるようにする。
- ・音楽では、歌を歌ったり、身体表現をしたり、楽器を演奏したりしながら楽しく活動できるようにする。
- ・言葉のやりとりをして、思いを伝えたり共有したりできるようにする。
- ・作る喜びを感じることができるようになる。



- ・遊び
- ・昔遊び
- ・砂遊び
- ・粘土遊び
- ・工作
- ・絵画
- ・折り紙
- ・お絵かき
- ・栽培活動
- ・お手伝い
- ・ダンス
- ・身体表現
- ・ごっこ遊び
- ・歌
- ・楽器遊び
- ・言葉遊び
- ・クイズ作り
- ・手遊び
- ・しりとり

目指す姿： たのしく、のびのびとつくるよ。

幼児期・年長後半
入学
（学びの芽生え）
↓
（自覚的な学び）
一年生・入学当初

⑥テーマ：人間関係の構築

【保育者・教師が大切にすること】 【大切な経験や活動】

- ・お迎え当番
- ・近隣の小・中・高生との交流
- ・祖父母との交流
- ・異年齢の活動
- ・当番活動
- ・ゲーム遊び
- ・共同制作
- ・お遊戯会
- ・模倣した集団遊び
- ・ルールのある生活や遊び
- ・「セカンドステップ」
- ・自己紹介
- ・名刺交換
- ・休み時間の共遊
- ・様々なグループ活動
- ・仲良し班遊び
- ・縦割り班活動
- ・新入生を迎える会
- ・ピアサポート活動 等



- ・地域の小・中・高生と交流し、様々な年齢の人との触れ合いの中で親しみや憧れをもち、愛情あふれる体験をする。
- ・自分の意見を言葉で表現でき、人の話もよく理解できるようになり、伝え合う喜びが感じられ、表現の幅を広げられる言葉かけをする。
- ・友達同士でいる楽しさを感じ、遊びの共有や共感をたくさん体験できる環境構成に配慮する。
- ・みんなで制作したものや協力したことにより達成感を味わえるよう工夫する。
- ・子どもたちにとっての楽しみ方に配慮し、集団の中にも主体性を大切にする。
- ・人の思いや考え、また表情に気付き、時に自分の気持ちを調整することもでき、友達との遊びを継続して楽しめる。
- ・たくさんの遊びの経験から、助け合いや思いやる気持ちが育まれ、協同的な活動が増える環境に配慮する。



- ・初めて顔を合わせる友達と、休み時間や生活科の学習の中で一緒に遊んだり、一緒に活動したりすることで一緒に楽しさを味わわせ、友達への関心を高める。
- ・国語や生活科の学習での名刺づくりや自己紹介の活動をとおして、友達の名前を覚えたり、自己紹介により相手をよく知ったりすることで親近感を覚え、仲良くなりたいと思う気持ちを高めるようにする。
- ・図工、音楽、体育などの教科の学習活動の中でも友達と一緒に活動する機会を意図的に設定したり、生活班や給食当番、係活動、また意図的なグループなど様々なループで一緒に活動したりする中で友達のよさを知り、新しい友達にも目を向けさせるようにする。
- ・他のクラスや上級生と一緒に活動することも取り入れて、さらに人間関係を広げていけるようにする。



子どもの姿

触れ合ってみよう

仲間を作ろう

集団の楽しさ

話したい
仲良くなりたい

一緒に遊ぼう

楽しいね
友達になろう

目指す姿：ともだちつくろう。ともだちふえたよ。

幼児期・年長後半
入学
（学びの芽生え）
↓
（自覚的な学び）
一年生・入学当初

⑦テーマ：自己表現力を高める

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

子どもの姿

関心・憧れ

友達に
伝えたい

伝わる喜び

多くの人に
聞いてほしい
見てほしい

たくさん
発表したい

分かりやすく
伝えたい

- ・表現したい、誰かに伝えたい、分かち合いたいという子ども自身の意欲がもてるようにしていく。
- ・誕生会での自己紹介など、みんなの前で表現する場を設ける。
- ・自分らしく表現している姿を受け止め、友達と共感できるようにサポートしていく。
- ・表現の仕方には、文字や絵、発表など様々な形式があることに気付かせていく。



- ・幼稚園や保育園・認定こども園での経験を生かせるような声掛けや指導を行う。
- ・入学当初の自己紹介や学校探検等の活動の中で、自分の思いや考えを話す機会を意図的に設ける。
- ・意欲的に発言したり、分かりやすく説明できたりしたときには大いに称賛をし、自信をもたせ、さらなる学習意欲につなげる。
- ・発表や分かりやすい説明の仕方等を明示し、回数を重ねるごとにその方法が身に付くようにする。
- ・児童の作品をできるだけ多く教室内に掲示する。
- ・伝えたい気持ちや共感できる喜びを感じることでできる関係性が構築された学級集団作りを行う。
- ・ペア学習やグループ学習などの学び合いを通して、分かりやすく伝えたい、もっと話したいなどの思いを強くさせたり、友達ちに分かってもらえたという成功体験を積ませたりする。



- ・作品作り（絵画・工作）
- ・自由遊び（ブロック・積み木等）
- ・教員による読み聞かせ
- ・当番活動
- ・給食の献立発表
- ・誕生集会でスピーチ
- ・他園との交流会
- ・栽培活動
- ・運動会でのダンス
- ・自己紹介
- ・名刺作り
- ・生活科の観察カードや発見カードの記入
- ・日直によるスピーチ
- ・始業式や終業式等での代表あいさつ
- ・作文・日記による表現活動
- ・メッセージカードの交換
- ・音楽を楽しむ会や学校音楽祭での発表
- ・高齢者や幼児との交流活動
- ・ペア・グループ学習

等

目指す姿：もっと話したい！伝えたい！教えたい！

幼児期・年長後半

入学

一年生・入学当初

（学びの芽生え）

（自覚的な学び）

⑧テーマ：決まりを守って、楽しく活動する子の育成

幼児期・年長後半
(学びの芽生え)

入学
一年生・入学当初
(自覚的な学び)

子どもの姿

好きなことを
好きなときに、
好きなだけしたい

友達と
仲良く遊びたい

がまんするゆずる
気持ち

決まりを
つくろう

話し合いで
決めよう

みんなで
楽しく遊べる

【保育者・教師が大切にすること】

- ・「好きなことをやりたい」という気持ちを受け止めてあげるようにする。
- ・善いことと、悪いことがあることを生活の中で気付き、行動できるようにする。
- ・自分で考え、判断していく経験を積み重ねていくことができるよう、過程を見守ったり、援助したりするようにする。
- ・納得のいかない場面では、子どもたちの思いを組み合わせながら、一緒に話し合いをし解決していきけるようにする。



- ・気持ちのよいあいさつ、場に応じた言葉遣い善い行いについて「分かっているはず」と思い込まずに教えたり、上手にできたときは褒めたりして定着を図るようにする。
- ・人として、してはならないことをしてしまったときは、後回しにせずその場でどうすればよいのかを一緒に考えるようにする。
- ・過ちに対して頭ごなしにしからず児童の話をじっくり聞き、気持ちを共感的に受け止めて対応する。
- ・時には毅然とした態度で、「だめなものはだめ」と教えるようにする。
- ・指導されたことが理解できなかったり、納得できなかったりするときは、考えさせたり、話し合ったりする時間をとるようにする。
- ・生活の中での困り感を子どもたちの自発的なルールづくりにつなげていけるようにする。



【大切な経験や活動】



・晴れた日にはなるべく外で遊び、体を動かす心地よさを味わう経験。

・自然に親しみ、工夫して遊びを広げられる楽しさを味わう経験。



・使った物を片付けたときの気持ちのよさや次に使ったときの使い勝手のよさに気付ける経験。

・順番を守ることで、活動がスムーズにいくことの実感を伴う経験。



・遊具は譲り合って使うことで、みんなが楽しめたことに気付く経験。

・自分がされてうれしかったことや、されていやだったことの言語化。



・当番をまじめに取り組むことで、自己有用感を味わう経験。

・人に喜んでもらう、感謝してもらう心地よさを味わう経験。



・元気のよいあいさつをしたりされたりする、すがすがしさを味わう経験。

・うそ偽りのない、明るい朗らかな気持ちに気付く経験。

目指す姿：友達を思いやり、なかよくできる子

⑨テーマ：体力づくり

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

子どもの姿

楽しそうだな
やいたいな

できた

体を動かす
楽しさ

もっと
やいたい

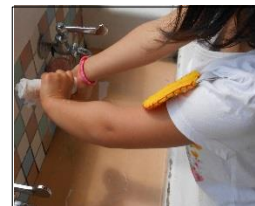
できるよう
になりたい

こんな技に
挑戦したい

- ・身近な生活の中の活動や遊びから自然に体力がつくように工夫する。
- ・遊び道具や材料を身近に置いておくなど、子ども自身で遊びを展開できるような環境の工夫をする。
- ・十分体を動かせる時間を確保する。
- ・子どもの気持ちを大切に、子どもから出たアイディアを活動に生かす。
- ・友達と一緒に楽しんでできる活動を工夫する。
- ・成長の段階に合わせた遊びを取り入れる。
- ・最終的なゴールではなく、やろうとしている過程に寄り添うようにする。



- ・十分体を動かせる時間を確保する。
- ・体育では、子どもが挑戦したくなるような運動遊びを取り入れる。
- ・ゲームをするときは、ほどよい緊張感をもって楽しめるよう、発育発達を考慮しグループをつくる。
- ・活動後に友達の工夫やアイデアを話し合ったりよいところを見合ったりする活動を取り入れる。
- ・互いに励ましたり応援したりし、みんなで頑張ろうとする雰囲気大切に。
- ・水泳カード・マラソンカード・なわとびカードなどを活用し、めあてをもって意欲的に取り組めるようにする。
- ・運動の楽しさを味わわせるため、小さな進歩や努力を見逃さず認めていく。



- ・服を着る・脱ぐ
- ・雑巾がけ
- ・草むしり
- ・野菜づくり等での道具運び
- ・給食の配膳
- ・布団を敷く
- ・蛇口をひねる
- ・段差に気を付けた歩行
- ・風呂敷を結ぶ
- ・料理
- ・かけっこ
- ・鬼遊び
- ・木登り
- ・ぶらさがり
- ・紙鉄砲
- ・リズム遊び
- ・ボール遊び
- ・虫とり
- ・昔遊び
- ・水遊び
- ・鉄棒遊び
- ・うんてい・登り棒
- ・なわとび
- ・竹馬
- ・一輪車
- ・マット・跳び箱

目指す姿：いろいろな動きができるようになったよ。

幼児期・年長後半
入学
（学びの芽生え）
↓
（自覚的な学び）
一年生・入学当初

⑩テーマ：協同性の育ち

幼児期・年長後半
入学
一年生・入学当初
(学びの芽生え)
↓
(自覚的な学び)

子どもの姿

ぼくは
わたしは

自分と違う
意見がある
ことを知る

友達に
伝えられる
ようにする

自分の役割を
しっかりやる

班で
協力して

クラス
のために

【保育者・教師が大切にすること】

- ・「僕は」「わたしは」と様々な自分の意見や考えを伝えようとする子どもたちの言葉を1つ1つ大切にし、受け入れ、自分のことを伝え知ってもらうことに喜びを感じられるようにする。
- ・個人個人での活動だけでなく、みんなで1つのものを製作する「共同活動」を行ったり、クラス単位で1つのことをやり遂げるなど、友だちと関わりあっている活動を取り入れていく。
- ・一人ひとり違う意見があることを知った子ども達が、自分の意見をきちんと伝え、また相手の意見を聞き入れられるような話し合いができる環境作りをしていく。
- ・子ども達が「自分のため」だけでなく「みんなのため」にできることはないか考え、また、みんなのために何かができたとときの喜びを感じられる体験ができるような援助をする。



- ・生活科の自己紹介の中で、子どもの興味・関心や得意なことを思い起こさせる。
- ・学級活動の話し合いの中で、自分を生かせる役につき、役割をしっかりとやろうという意欲をもたせる。
- ・生活科の「いえのしごとをやってみよう」で、家族が喜ぶような仕事を見つけ、家族のために工夫してやろうとする気持ちをもたせる。
- ・それまでの学習や体験を通して、自分の役割をやるだけでなく、相手意識を持ち、クラスのためになるような活動を工夫して行おうとする気持ちや姿を大切にすること。



【大切な経験や活動】



- ・お米を育てよう
- ・夏祭りごっこ
- ・かるた・すごろくあそび
- ・運動会でのクラス対競技
- ・発表会
- ・お当番活動
- ・食育活動
- ・学年での合同活動
- ・ルールのあるゲーム遊び
- ・自己紹介
- ・学校探検
- ・学級での話し合い
- ・清掃活動
- ・避難訓練
- ・業間活動
- ・昼休み
- ・運動会
- ・持久走大会
- ・なわとび大会

目指す姿：クラスのためにみんなの力を合わせよう

⑪テーマ：コミュニケーション力の育成（集団遊びを通して）

幼児期・年長後半
入学
一年生・入学当初

（学びの芽生え）

（自覚的な学び）

子どもの姿

友達と遊ぶのって
楽しいな

自分から友達を
誘ってみようかな

みんなで仲良く
遊ぶと楽しいな

どうしたら
楽しく遊べるかな？
友達と相談しよう！

お互いに
助け合おう

友達と関わりなが
ら仲良く遊べるよ

【保育者・教師が大切にすること】

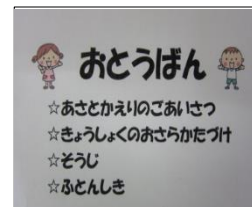
- ・身体的な成熟と機能の発達に加え、年長としての自覚や誇りをもって活動する気持ちを育む。
- ・集団遊びが活発に展開され、遊びの中での役割を担うことで、共同しながら発展させていくようにする。
- ・友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言い合うこととともに、自分の主張を一步譲って仲間と協調したり、意見を調整しながら仲間の中で合意を得る経験をしていく。
（やはた保育所 福田）



- ・具体的な活動や体験を通して学習する「生活科」を中心として、様々な場面で友達や身の回りの人とコミュニケーションを取る経験をさせていく。
- ・入学当初の生活科「2年生と遊ぼう」の中で、2年生に遊具の使い方等を教わりながら、小学校の広い校庭での遊び方に慣れさせる。
- ・1年生の4月頃、生活科「ともだちつくろう」で、グループの集団遊びを通して仲間意識や帰属意識を育む。
- ・生活科での経験を生かし、体育や休み時間、昼休みにも、友達と仲良く遊べるようサポートする。（大谷東小学校 河又）



【大切な経験や活動】



- ・当番活動
- ・異年齢とのわらべ歌遊び
- ・鬼ごっこ（色おに・高おに）
- ・サッカー遊び
- ・造形遊び
- ・ままごと遊び
- ・リレー
- ・劇遊び
- ・文字遊び（カルタ・しりとり）
- ・共同製作
- ・お店屋さんごっこ
- ・ドッジボール
- ・生活科「自己紹介をしよう」
- ・ “ 「2年生とあそぼう」
- ・ “ 「友だちつくろう」
- ・ “ 「学校たんけん」
- ・鬼ごっこ（体育）
- ・鬼ごっこ（昼休み）
- ・作戦タイム（体育）
- ・友達と仲良く遊ぶ（昼休み）

目指す姿：友達と仲良く遊べるよ。

12 テーマ：あいさつの習慣

【保育者・教師が大切にすること】 【大切な経験や活動】

子どもの姿

親しみ

友達に
伝えたい

伝わる喜び

元気よく
返事したい

いろんな
あいさつが
あるんだね

明るく
あいさつ
したい

- ・ あいさつを通し、保育士等や友達等の温かいふれあいの中で心の安定感を得られるようにする。
- ・ 散歩や公共機関を利用する機会を設け、地域の方や高齢者の人とあいさつを交わしたりする中で、人への関心を深めていく。
- ・ 保育士等や友達とともに楽しく生活する中で、あいさつの習慣を身につけ、相手への親しみを込めてあいさつを交わせるようにする。
- ・ 行事や日常生活において様々な種類のあいさつがあることを知り、伝える楽しさや伝わる喜びを味わう。



- ・ あいさつや返事をする事で、1年生になった喜びを一人一人に味わわせ、安心して学校生活が送れるようにする。
- ・ 通学路の様子やその安全を守っている人に関心を持ち、進んであいさつを交わせるようにする。
- ・ 新しい友達や教師とも親しみをもって学校生活を送ろうとしている時期に、場に応じたあいさつの大切さを学び、基本的な生活習慣の一つとしてしっかり体得させる。
- ・ 地域の人々とのあいさつや適切な言葉遣いでのやりとりを繰り返す中で、伸び伸びと安心して生活できるようにする。



- ・ 登降園
- ・ 朝の会
- ・ ごっこ遊び
- ・ さんぽ
- ・ 紙芝居
- ・ 読み聞かせ
- ・ 給食
- ・ お当番活動
- ・ 入学式
- ・ 自己紹介
- ・ 登下校
- ・ 道徳あいさつ
- ・ 学校内の生活
- ・ 学校探検
- ・ 1年生歓迎会
- ・ 休み時間
- ・ 縦割り清掃
- ・ 校外学習
- ・ さつま芋の苗植

目指す姿：あいさつすると気持ちがいいね

幼児期・年長後半
入学
一年生・入学当初

(学びの芽生え)

(自覚的な学び)

13 テーマ：話す・聞く力

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

子どもの姿

自分を知って
もらいたい

友達に聞いて
もらいたい

伝わる喜び

話すことが
楽しい

大きな声で
話したい

分かりやすく
話したい

友達の話
を聞きたい

最後まで話を
聞きたい

- ・子どもの気持ちを丁寧に読み取る。
- ・信頼関係を築く。（心を通わせる）
- ・自ら話そうという意欲を見守りながら、親しみをもって接し、しっかりと視線を合わせて子どもの話に耳を傾ける。
- ・経験を生かして、友達や保育士とやりたいことが十分に組み立てる環境を作る。
- ・遊びの場面で自分の思いを話せるように、きっかけを作るようにする。
- ・表情や声のトーン、話し方を工夫して、相手の話し方や話の面白さが味わえるようにする。



- ・分かりやすいように、短く、簡潔に話す。
- ・集中して聞けるように、話している人や相手に顔、体を向ける。
- ・大きな声で話せるように声の大きさや速さについて指導。
- ・様々な場面で意図的に子どもたちが静かになるのを待ち、聞く姿勢を作る。
- ・日常生活や授業で、子どもたちが話したいという気持ちを認め合う雰囲気を作る。
- ・話し合う経験を通して自信を持たせるようにする。また、個々に合った話題作りをしていくようにする。



- ・ごっこ遊び
- ・読み聞かせ
- ・紙芝居
- ・リトミック
- ・自分の話を十分に聞いてもらう
- ・ルールのある遊び
- ・あいさつ
- ・当番活動
- ・地域や、異年齢児・他学年との交流
- ・発表会
- ・スピーチ
- ・ゲーム
- ・ペアやグループで話し合い
- ・話す聞くスキル
- ・音読

等

幼児期・年長後半
入学
（学びの芽生え）
↓
（自覚的な学び）
一年生・入学当初

目指す姿：大きな声で話せるよ。最後までお話聞けるよ。

⑭テーマ：自己肯定感を育てる

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

子どもの姿

できるかな…
これでいいのかなあ

うまく
できなかったら
どうしよう

きっとやれるよ、
大丈夫
ありがとう

やってみよう

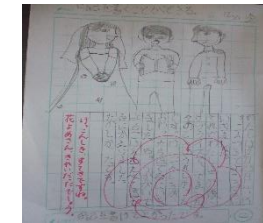
大きなチャンス
もう1年生だよ
(転機)

1年生だから
できるよ

- ・一人一人の思いを大切にしていく。
- ・子どものペースを大切にした園生活
- ・自分でやれる体験を増やしていく。
- ・遊びの中で友達と関わり、自分の思いを伝え、受け入れられる経験を重ねられるようにする。



- ・子ども同士の発言を促すような働きかけをしていく。発言しやすいよう、様々な角度からアプローチする。
- ・話を聞いて、認めることで自信をもたせる。
- ・がんばったことでできた、と実感させる。
- ・あらゆる生活場面で、タイミングをとらえながら子どものがんばりを認める。



- ・発表会
- ・運動会
- ・当番活動
- ・お手伝い
- ・小さい子の面倒を見る
- ・できなかったことができるようになる
(なわとび・跳び箱など)
- ・がんばったことの発表
- ・栽培活動
- ・観察カード
- ・教師の支援(声かけ、アンダーライン・コメントによる励まし)
- ・日記指導
- ・来入生との交流活動、計画・実践

目指す姿：ばく、やれるよ！わたしもできるよ！

幼児期・年長後半

入学

一年生・入学当初

(学びの芽生え)

(自覚的な学び)

⑮テーマ：自己肯定感（安心感・達成感）を高める

幼児期・年長後半
入学
（学びの芽生え）
↓
（自覚的な学び）
一年生・入学当初

子どもの姿

自分でやりたい
自分がやりたい

自信
できる喜び

小学校への
あこがれ

もっとできるよ
うになりたい

がんばりたい
友達にも
教えたい

わかるよさ
できるよさ

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

○主体的な『暮らし』と『あそび』を大きな柱として支援していく。

- ・楽しいことや好きなことを通して様々なことを学んでいく。
- ・あそびを中心として、頭も心も体も動かして、様々な対象と直接関わりながら総合的に学んでいく。
- ・日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。
- ・すべての子どもが、どんな姿も肯定的に受け止められ、認められて愛されて育つ。
（家庭との連携）

○スタートカリキュラムの実施

- ・生活科を中心とした合科的な指導を行う。
- ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける事ができる。
- ・自分の思いや考えなどを適切な方法（話す・書くなど）で表現できる。
- ・児童が活動に見通しをもてるように、ねらいを明確にする。
- ・自分らしく素直に表現できる学級の雰囲気をつくる。
- ・教師が一人一人を認め、できたことを伝え、ほめていく。



- ・栽培活動
- ・飼育活動
- ・制作活動
- ・見て聞いて学ぶ
- ・主体的な経験活動
（暮らし・あそびの中から）
- ・幼小交流
- ・卒園式での誓いの言葉
- ・自己紹介
- ・名刺交換
- ・学校探検
- ・栽培活動の中で
- ・2年生との交流
- ・なかよし班での
他学年との交流
- ・文字学習の中で
- ・係・当番活動
- ・清掃活動 等

目指す姿：だいじょうぶ、できるよ。できるようになったよ。

①6 テーマ：コミュニケーション力の育成

幼児期・年長後半
入学
一年生・入学当初
(学びの芽生え)
(自覚的な学び)

子どもの姿

自己主張の
ぶつかり合い

伝え合い

協調と調整

学校って
楽しいな

もっと
知りたいな

いっしょに
学びたいな

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

- ・正しく分かりやすい言葉を使って語り掛け、言葉を交わす喜びや豊かな表現を伝える手本となる。
- ・ぶつかり合う場面では、園児の主張や気持ちを十分に受け入れ、互いの思いが伝わるようにしたり、納得して気持ちの立て直しができるようにしたりしていく。
- ・心を傾けて園児の話やその背景にある思いを聞き取り、友達と自由に話せる環境づくや園児同士の心の交流が図れるように工夫する。
- ・保育者自身も共に聞くことを楽しむという姿勢を見せ、場の設定や伝え合うための工夫や援助を行う。



- ・自分の気持ちや思いを大切に、自分の考えを表現できるように支援する。また、相手の話を最後までしっかり聞けるよう支援する。
- ・学校のきまりに慣れさせたり、新しい友達とのよりよい関係づくりをスムーズにできるようにペア学習やエンカウンター・ソーシャルワークなどを行う。
- ・ひらがなや数字を読んだり、書いたりする学習を通して、「わかる・できた」が実感できるように一斉指導や個別指導を工夫する。
- ・教師や友達の話をしっかり聞いて反応したり、自分の思いを発表したりして、認め合うことの喜びを感じられる学級づくりに努める。



- ・生活発表
- ・遊び全般
- ・けんか
- ・グループ活動
- ・当番活動
- ・ごっこ遊び
- ・ゲーム遊び
- ・リレー
- ・実験遊び
- ・おしゃべり
- ・自己紹介
- ・学校探検
- ・清掃・縦割り班活動
- ・ペア・グループ学習
- ・栽培活動
- ・音読学習
- ・ひらがな学習
- ・算数セット
- ・発言・発表

目指す姿： いっしょに勉強できてうれしいな

17テーマ：表現力

幼児期・年長後半

(学びの芽生え)

入学

一年生・入学当初

(自覚的な学び)

子どもの姿

豊かな体験

様々なあふれる思い

みんなに伝えたい

いろいろな表現方法を知る

自分の気持ちを伝えたい

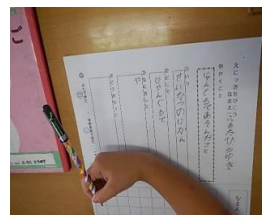
伝える・伝わるって楽しい

【保育者・教師が大切にすること】

- ・うまく言葉にできない思いや考えもあり、一人一人感じ方も違う。そんな姿を見逃さず、言葉がけをして子どもなりの表現を引き出していく。
- ・友だちと一緒に遊んでいて意見が合わないこともしばしばある。悲しい」「困った」「悔しい」等の気持ちを受け止める。相手の気持ちを気づかせるようなかわりをしていく。心地よい表現、不快な表現があることを知らせる。
- ・保育の中に自然体験を多く取り入れる。四季の変化を感じたり、小さな生き物に触れ、「きれい」「おもしろい」「不思議」等の感動を味わわせる。
- ・日常クラスでの発表、行事での発表等の体験を重ね、自信につなげていく。
- ・様々な方法での表現ができることを認める。友達にうまく伝わらないことには、イメージをふくらませていけるようなサポートをしていく。その中で友達の良さや違いに気づき、表現活動を友達と一緒に楽しんでいく。

- ・保育者と児童のこれまでのかかわりの様子を知り、児童の実態から小学校での支援の方策を探る。
- ・これまでに身につけてきた表現力を認めながら教科の特性を生かして様々な表現を楽しめるように支援する。(生活科、図工、音楽、国語等での遊びを取り入れた学習)
- ・体験を重視し、感じたことを言葉にしたり絵や文字にしたりする活動を大切にする。
- ・人間関係プログラムの計画的な実施により、自分の気持ちを表現しやすい学級の雰囲気作りをする。
- ・学級の友だち、2年生の友だち、全校生の前、保護者の前など、相手意識を変え、発表の場を設ける、友だちと表現することを楽しむ場を作る。
- ・表現することに苦手意識をもつ子には、友だちの表現を楽しむことから始められるよう支援する。
- ・授業の中での言語活動を意識し、発達段階の即した様々な表現の力(書く・話す等)を育成していく。

【大切な経験や活動】



- ・自然に触れたあそび
- ・てあそび、うたあそび
- ・制作
- ・劇ごっこ、オペレッタ
- ・リトミック、運動あそび
- ・絵本、紙芝居、読みきかせ
- ・ままごとあそび
- ・生活発表
- ・集会
- ・当番活動
- ・誕生会、クリスマスお楽しみ会
- ・1年生との交流会(学校見学)
- ・水遊び(生活科)
- ・アサガオの栽培(自然とのふれあい)
- ・文字の学習(伝える手段)
- ・ミニコンサート(自主的な表現)
- ・学年発表、学習発表(友だちと表現)
- ・自分の思いを書く、話す力を授業で身につける。

等

目指す姿：感じたことや思ったことを伝えるって楽しいね！

⑱テーマ：数の意味を理解し、数を用いる力の習得

幼児期・年長後半

(学びの芽生え)

入学

(自覚的な学び)

一年生・入学当初

子どもの姿

興味・関心をもつ

数に触れる

数に慣れる

数の学習への憧れ

数の読み書きができる

数の合成・分解ができる

【保育者・教師が大切にすること】

- ・遊びの中の様々な事象から、数量への興味・関心など、環境をとおして気付かせていく。
- ・生活や遊びの中で、子どもが必要を感じて行動し、実感を伴いながら数に触れることができるようにする。
- ・子どもの気付きなどに関心を寄せ、話をじっくり聞いたり、一緒に試したり、調べたり、確かめたりすることを楽しみ、子どもの好奇心や探究心を刺激するような働きかけをする。
- ・家庭や地域で体験したことなど、新たな体験と絡ませて、自分たちの遊びに取り組もうとする過程を支え、遊びが豊かになるよう援助していく。



- ・児童が興味を喚起する場面を設定し、就学前の遊びや経験を発展させて学習に導入する。
- ・他教科との関連を積極的に図る。特に、生活科を中心とした合科的な指導を行えるような工夫をする。
- ・ICT機器を効果的に活用し、視覚的にわかりやすい授業を展開する。
- ・具体的な操作活動を大切にし、おはじきや数図カードなどを効果的に活用する。
- ・児童が主体的・意欲的に、学習の補充・深化・定着ができるような「数のコーナー」を設けるなど、学習の環境を整える。
- ・学習形態や展開等を工夫し、児童同士が関わり合いながら学習できるようにする。



【大切な経験や活動】

- ・数唱(いろいろ)
- ・数に親しむ遊び
絵本・歌・ランプ
サイコロ・双六
- ・数の集合を知る
積み木・ブロック
お店屋さんごっこ
- ・数に気付く
カレンダー・時計
誕生表・日付
- ・手先を使った遊び
手遊び歌・色塗り
折り紙・粘土遊び
- ・時間割・日課表
- ・学校探検
- ・飼育栽培活動
- ・筆順や字形
- ・5の合成・分解
- ・集団行動(整列)
- ・ボール遊び
- ・かけっこ 等



目指す姿：数の読み書きができるよ。数を分けたり、合わせたりできるよ。

19 テーマ：思考力

【保育者・教師が大切にすること】

【大切な経験や活動】

子どもの姿

興味・関心

遊び

好き
(好奇心)

自分と
他者の認識

自分と他者の
接点ができる

自分と他者の
比較、
広い視野へ

- ・自由時間を確保する。
- ・しかけのある環境構成をすることで、見方や考え方を広げたり深めたりする。
- ・子どもとの信頼関係を作り、安心感をもたせる。ありのままの姿・よさや頑張りを認めることで、自己肯定感をもてるようにする。(スキンシップ、言葉かけ、保護者との連携など)
- ・見守る。
- ・子どもの目線に立つ。
- ・子どもの話に傾聴する。
- ・対象(人・もの・こと)を認識させる。
- ・繰り返しの経験をさせる。
- ・必要感をもつ場を作り、習慣化できるようにする。
- ・幼稚園・保育園・小学校の様子をお互いに参観することにより、どんな場面でも思考しているかを知る。



- ・1年生の幼稚園・保育園での学びを、全職員でスタートカリキュラム中心に生かす。
- ・対話を通して、諸活動を進める。
- ・子どもの言葉を拾い、聞く。保育者や教師は子どもの言葉をつないだり広げたりする橋渡しをする。
- ・多くの人と関われる場を作る。(席替え・異年齢集団・意図的グループ)
- ・対象と関わる中で、自分自身への気づきを高める。(母校→地域→社会へ)
- ・違いを認める。
- ・自分自身や対象・活動を振り返り、伝え合い、広める。



- ・自由な時間・空間
- ・自然体験
- ・五感を刺激するもの
(観察や発見する体験)



- ・会話
- ・おもちゃ・遊具
- ・ごっこ遊び
- ・ルールのある遊び
- ・本や紙芝居にふれる。
- ・年長の時期に小学生生活の一部を体験する。



- ・学校案内
- ・一年生が年長児が遊べるものを作り、一緒に遊ぶ。



- ・自分の存在が分かる物
(机・靴箱など)
- ・掲示物(上級生の物など)
- ・生活科の時間を1・2年生



- ・同じ時間割に設定
- ・安全に関する活動(遊具を使う場、避難訓練など)

目指す姿： 「○○どうかな。」

20 テーマ：話す・聞く力

【保育者・教師が大切にすること】 【大切な経験や活動】

子どもの姿

親しみ

だれかに
伝えたい

話す喜び

聞くことの
大切さ

正しく
聞きたい

じょうずに
伝えたい

- ・子どもの言葉に耳を傾けた応答的なやり取りを行ない、伝えたい気持ち、相手の思いを聞きたいという心を育てる。
- ・子どもの持つイメージを広げ、言葉で表現したくなるような環境作りをする。
- ・子どもの興味・関心を高め聞く態度を育む。
- ・相手にわかりやすく自分の思いや考えを伝えようとする力を育む。（安心して伝え合いができるよう仲立ちする。）
- ・思った事・感じたことをみんなの前で話す場を設けたり、お使い活動などを通して成功体験を増やし自信を持たせる。



- ・友だちの存在が分かり、友だちとのやりとりの中で楽しく安心して生活したり遊びや学習ができたりするような居場所を作る。
- ・「学校探検」の中でもっと知りたいと思った事を伝え合い交流する活動が双方向で行き来できるようにさせる。
- ・係活動や、当番活動の中で、適切なやりとりや関わり方ができるようにする。
- ・複数の友だちとの遊びや様々な活動の中で、相手のよさを感じ取り自分の思いを伝えながらより深い関係を築けるようにする。
- ・スピーチや発表の活動では言葉による交流だけでなく感情の交流が行われるようにする。



・絵本・紙芝居の読み聞かせ

・お当番活動

・言葉遊び

・ごっこ遊び

・インタビュー体験

・生活発表会

・お使い活動

・今日の発表タイム



・1年生を迎える会

・縦割り班活動

・学級活動

・学校探検

・栽培活動

・給食

・係活動

・朝のスピーチ

・帰りの会（よいこと発表）



目指す姿：伝わると嬉しいな。正しく聞くね。

幼児期・年長後半
入学
（学びの芽生え）
↓
（自覚的な学び）
一年生・入学当初

幼小連携川柳



一年生
ちよっとまってね
できるから！

「まかせてね」
「見守ってるよ」
かわりの中であかがやくわたし

子を信じ
待って任せて
一人だち

子どもはね
あそびの中で
学んでる

できるから！！
応援してるよ
待っててね

子の姿
我が道照らす
未来の灯

あたたかく
みとめまもり
個をのばす

せんせいが
あそびとまなびを
つなぐカギ

いつまでも
あなたの成長
見守るよ！！

寄り添って
子どもの力を
信じよう

おくります
ほめてそだてた
子どもたち

ひきうけた
信じて伸ばす
一年生